



## 答 申 書

令和8年3月3日

阿賀野市長 加藤 博幸 様

阿賀野市水道事業審議会  
会 長 小 林 龍 幸

### 阿賀野市新水道ビジョン（改定）（案）について（答申）

令和8年1月16日付け阿水第326号により諮問を受けた「阿賀野市新水道ビジョン（改定）（案）」について、下記のとおり答申します。

#### 記

阿賀野市の水道事業においては、加速する人口減少や節水機器の普及等により水需要の減少が将来にわたって予測されている一方で、施設・設備の老朽化が進行しており更新需要は今後さらに増加する見通しとなっています。

また、全国的に地震や豪雨等の大規模災害が多発しており、その備えや対策を引き続き進めていく必要があります。これらに要する費用の増加や近年の物価上昇に伴い、経営環境はさらに厳しくなることが見込まれるため、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図ることが求められています。

この度改定された「新水道ビジョン（改定）（案）」は、今後10年間の阿賀野市水道事業運営について「安全」「強靱」「持続」の3つの視点を踏襲し、現状の課題を解決するための実現方策がロードマップにより整理されており、その内容は妥当であると判断します。

- 1 水道事業の経営にあたっては、安全でおいしい水を安定して供給することを念頭に、より一層の効率化と財政の安定化に努めること。
- 2 水道は、日常生活や社会経済活動に不可欠な重要ライフラインであり、いかなる状況においても安定した供給が求められる。そのため、老朽化に伴う施設

の更新と統廃合、施設・管路の耐震化とダウンサイジング等を将来の水需要に合わせて、計画的に行うこと。

- 3 給水収益が減少している状況でも、経営の改善・合理化を一層徹底し安定した事業運営を目指すこと。

また、いずれ必要となる水道料金改定には、低い改定率でも効果が大きく、需要者からの抵抗感が少ない改定内容を検討すること。